

経営比較分析表（平成29年度決算）

岩手県普代村 国民宿舎 ころさき荘

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	観光施設事業	休養宿泊施設	A 1 B 2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	建物延面積(m ²)	宿泊定員数(人)	
該当数値なし	該当数値なし	4,452	96	

客単価(円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合(%)
8,547	導入なし	5.9
バリアフリー法の基準適合性	トイレ洋式化率(%)	Wi-Fi設置
無	100.0	有

グラフ凡例
■ 当該施設値(当該値)
— 類似施設平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

分析欄

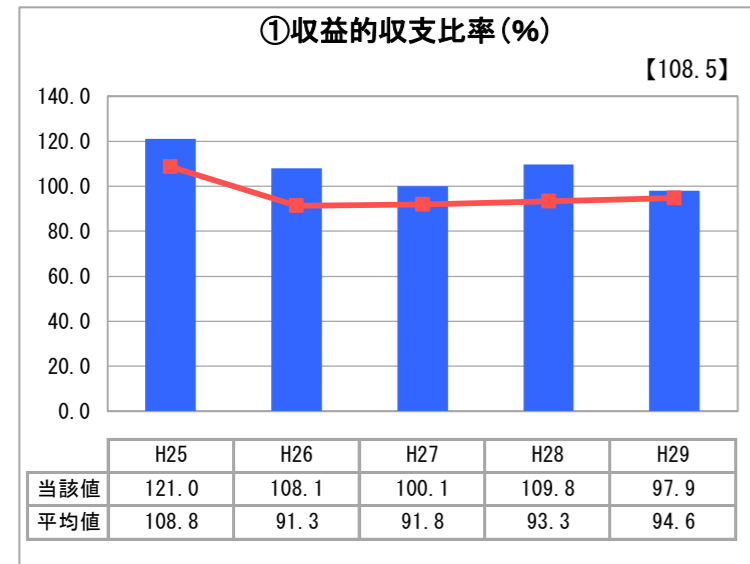
1. 収益等の状況について
 直近5年間における収益的収支比率は、全国平均108.5%、類似施設平均95.96%であるのに対し、本施設は107.38%となっているが、H29年度は類似施設平均の値は超えたものの97.9%となった。震災以降、復興関連の利用者が増加し、利用率は5年平均で73.5%となっている。また、他会計補助金の比率も全国・類似施設の平均より良好な数値となっている。
 特需の推移は年々減少傾向にあり、一般観光客等の利用拡大に向けた取り組みと効率的な経営の在り方について不断の見直しを行いながら健全経営に努める。

2. 資産等の状況について
 平成25年度から老朽化した施設の更新を進め、宿泊施設としての機能水準の向上と業務の効率化など図っているが、老朽化により未利用となっている施設もあることから、改修又は除却に係る方針・施設管理計画等を早急に定め、適正な施設規模での経営を図る必要がある。
 また、企業債残高対料金収入比率は全国・類似施設の平均より高く、将来的に経営の不安定要因とならないよう留意する必要がある。

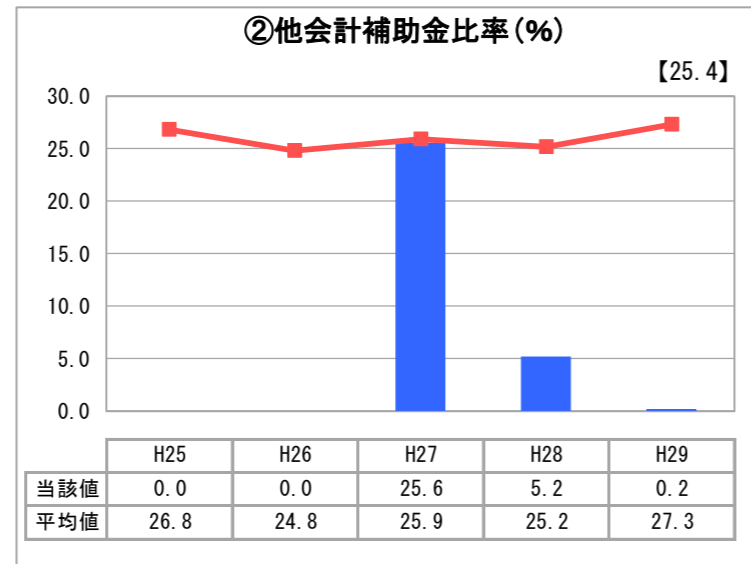
3. 利用の状況について
 震災前の利用状況は、5年(H18~H22)平均で約6,200人となっていたが、震災後の特殊需要(復興関連利用の増加)により、直近5年の平均は10,400人、67.7%と大幅な増加となっている。しかし、年々、利用者は減少傾向にあり、一昨年から減少傾向は加速化している。今後、2~3年程度で終息するであろう需要を一般観光客等の利用に移行するための対策・取り組み等が喫緊の課題となっている。

全体総括
 本施設は、地域振興や村民力の向上にも果たす役割・効果が将来的に大きく、施設の老朽化対策や宿泊施設としての機能水準の向上、また、経営の健全化・安定化を図るための集客力強化など、今後の社会経済の変化を予測し早急に対処しなければならない課題が多く、その課題解消・改善には、産業団体や民間企業、一般村民、行政などが一体となった魅力と観光力を備えた体制の構築が必要であり、三セク又は民間への経営移転も含めた検討を行うとともに、良質なサービスの提供と業務の効率化、コスト削減に努める。震災後の特殊需要により収益状況は良好となっているが、復興工事完了後の施設運営について、事業の存廃を含め将来的な施設運営に係る方針を定める必要がある。
 経営戦略の策定状況については、現在経営形態の見直しの検討段階であり、検討終了後に策定する予定である。

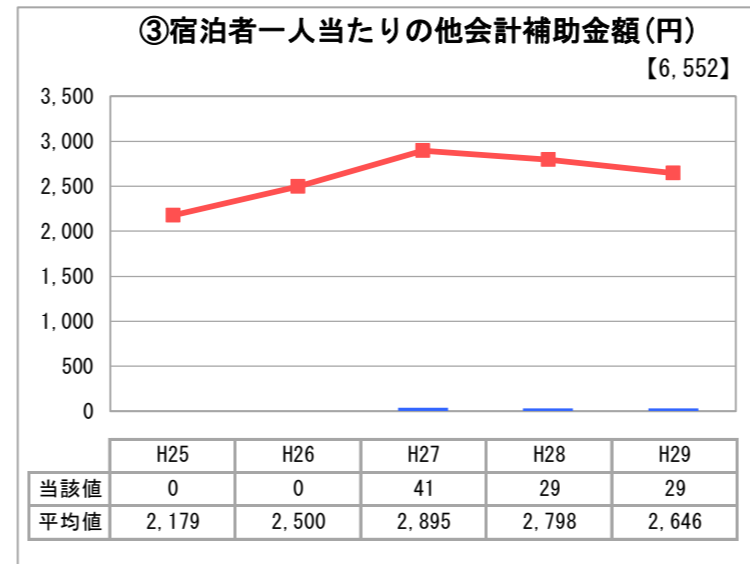
1. 収益等の状況



「経常損益」

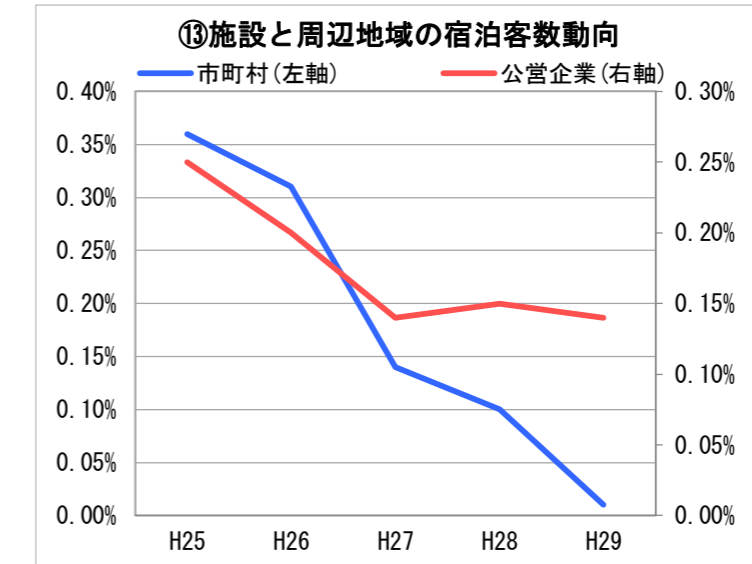


「他会計補助金割合」

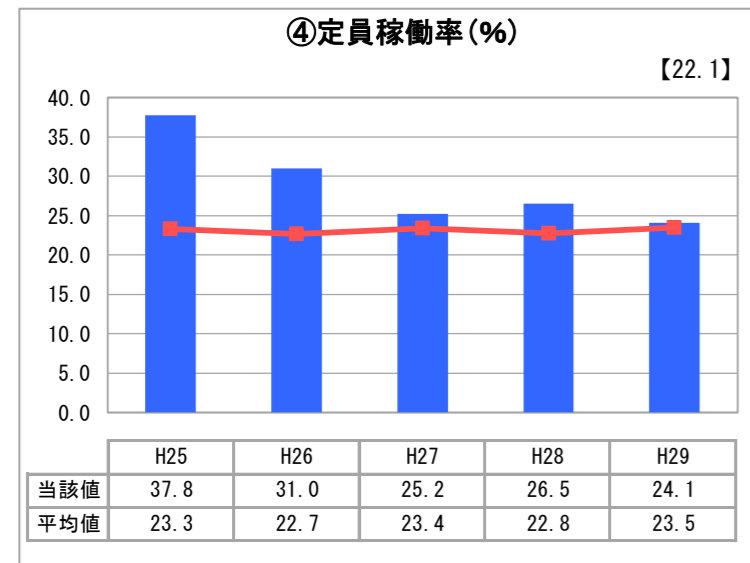


「他会計補助金額」

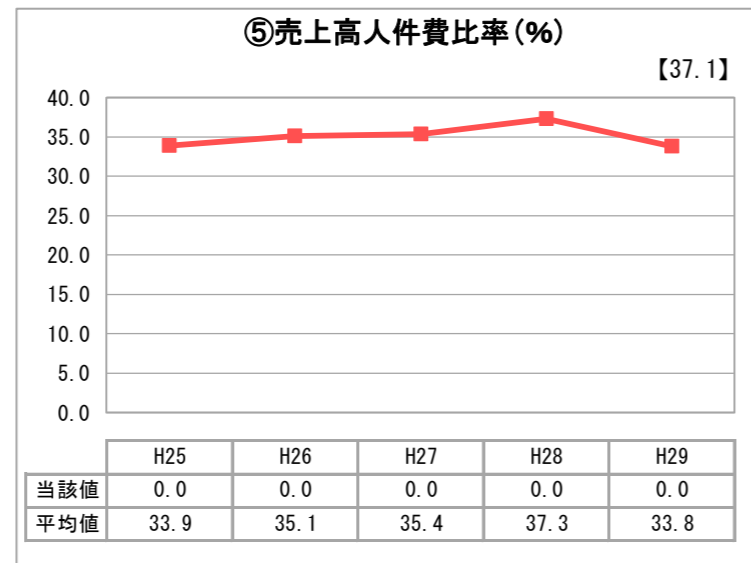
3. 利用の状況



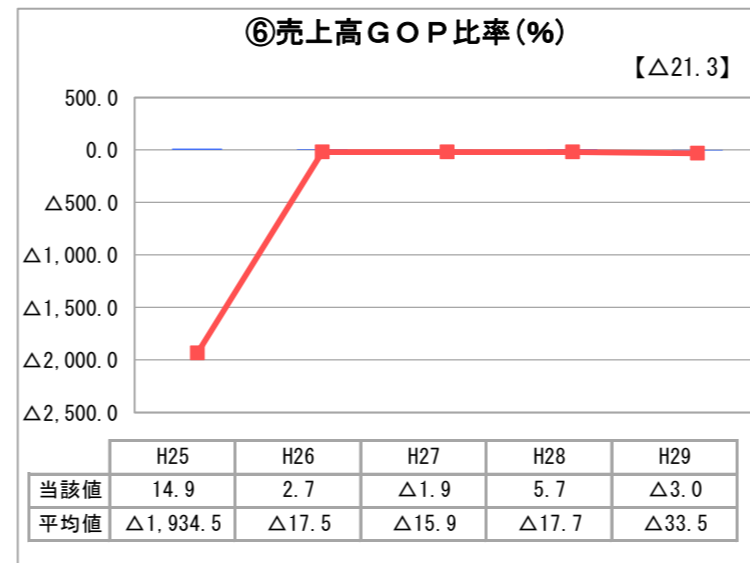
「都道府県延泊者数に対する割合」



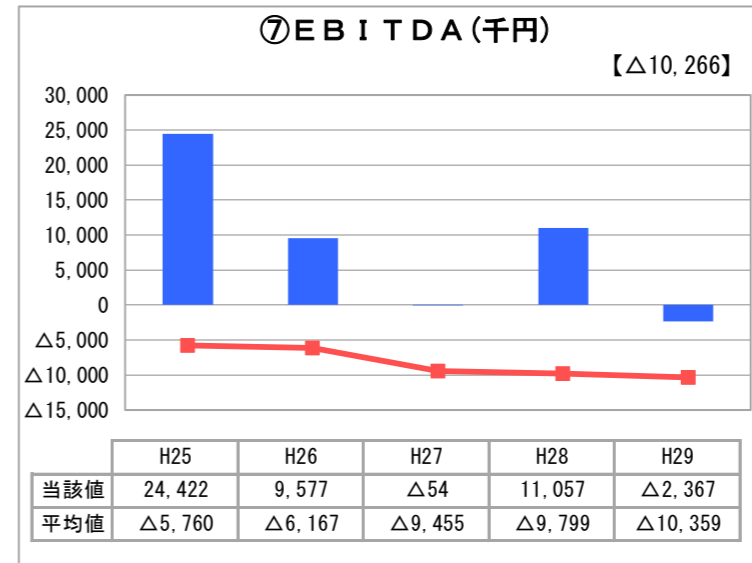
「施設の効率性」



「人件費負担」



「売上高に対する営業総利益」



「減価償却前営業利益」

2. 資産等の状況

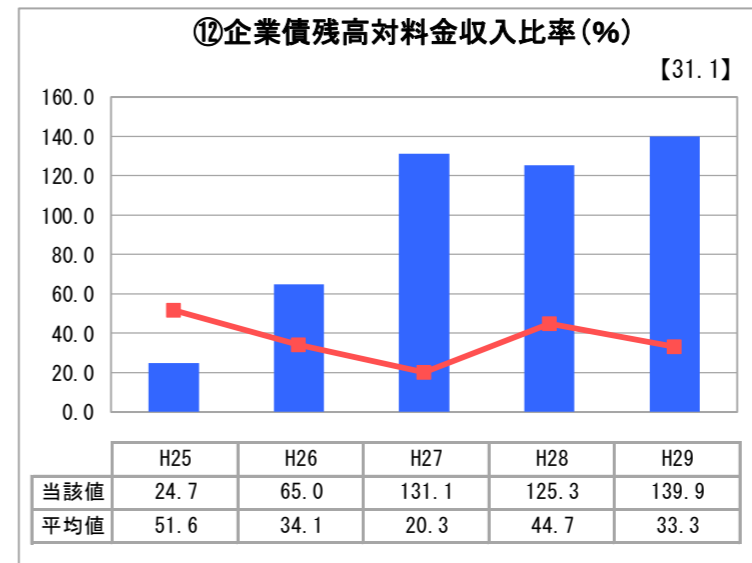


「施設全体の減価償却の状況」

⑨施設の資産価値(千円)	959,424
⑩設備投資見込額(千円)	0



「累積欠損」



「債務残高」